

中国内陸農村訪問調査報告 (4)

内山雅生 河野 正 前野清太郎 祁 建民

The Report of House-to-House Investigation in Rural Community of Inland China (4)

Masao UCHIYAMA, Tadashi KONO, Seitaro MAENO, Jianmin QI

概 要

本稿は、2012年8月に筆者をはじめとする中国農村研究者が中国山西省P県N郷D村と四社五村で実施した聞き取り調査の報告書の一部である。老農民・幹部経験者・村落婦人・農村教師・農民企業家など農村の諸階層から聞き取り調査を行い、1940年前後を起点とする70年間の農村変革の歴史的過程を追跡した。その際に、農民との質問応答録を原則としてそのまま収録することによって、村落社会の多様な面に照明を当て、村民の視点に立った家族史・村落史の再構成を目指した。

キーワード：中国内陸農村、個人史、家族関係、水利史

2012年8月に、筆者をはじめとする中国農村研究者は、2011年8月に引き続き、中国山西省P県N郷D村で聞き取り調査を実施した。また、今回の訪問は、D村の他に、靈石県溝峪灘村（1940年代日本側によって調査を実施された村）を訪問した。以上の訪問調査は、山西大学中国社会史研究センターの協力を得て、日中両国の共同研究として実施した。日本側の参加者は内山雅生（宇都宮大学教授・代表）、弁納才一（金沢大学教授）、田中比呂志（東京学芸大学教授）、小島泰雄（京都大学教授）、首藤明和（兵庫教育大学准教授）、阿古智子（東京大学准教授）、林幸司（成城大学准教授）、吉田建一郎（大阪経済大学講師）、福土由記（総合地球環境学研究所研究員）、河野正（東京大学大学院）、佐藤淳平（東京大学大学院）、古泉達夫（東京大学大学院）、前野清太郎（東京大学大学院）と祁建民である。

山西大学側の参加者は行龍（同教授、副学長、中国社会史研究センター長）、郝平（同

副教授、中国社会史研究センター執行主任）及び同研究員の常利兵、李嘎、馬維強である。通訳の担当者は毛来靈、孫登州である。なお、本稿でも『中国内陸農村訪問調査報告 (3)』と同様に、プライバシーの保護に配慮して村民の実名の表記は極力避けるようにした。弁納、田中、小島、首藤及び山西大学のメンバーの調査記録は他の刊行物で掲載する予定である。

このプロジェクトは、2010年より5年間の予定で開始された、平成22年度基盤研究(A)（海外学術調査）「近現代中国農村における環境ガバナンスと伝統社会に関する史的研究」によって実施している。

一、P県N郷D村調査記録

侯 JL

訪問日時：8月18日午後

訪問者：祁・内山（行龍先生・張永平さん

同行)

訪問場所：侯 JL 宅

※本村で運輸業を経営。侯さんが到着時まで、同行した張永平さんが、昨年12月実施の道備村選挙の結果、村幹部の大半は再選され、梁書記長の体制が維持されていること、および村官の書記は、以前村に滞在していたが、いつもは郷に滞在していること、2、3年後に、村官の経験を活かして、国家幹部を受験する者が多いこと、中にはモデル村となった例もあり、山西省では2006年から実施していることを解説してくれた。

- ・ 家族＝本人は52歳、丑年。父は侯 LH、母は武 GH。51歳、寅年の妻との間に、長男侯 XL28歳、長女侯 MX26歳。
- ・ 学歴＝初級中学卒業後、父の四清運動期の冤罪（改革開放後に名誉回復した）により、高級中学に進学できず、1976年に中学卒業後、農業に従事した。
- ・ 職業＝1982年より本村の土木工事を請け負う「包工頭」となり、村民十数人を雇って、年間3,000～5,000元の収入を得た。2005年には十数万元の収益。2005年以降は、村の人を雇用しにくくなり、2010年より車1台に、友人の紹介により村外人4人（県城の人2人、田家堡の人2人）を運転手として雇用し、運輸業をする。2009年に現在の住居の土地1.8畝を3万元で購入し、陸家街19番から引越した。
- ・ 龍海＝本村から龍海企業に採用された従業員は少ない。養鶏も鶏肉の加工も村とは関係ない。今から6、7年前に、川沿いの土地を請負い、1万株の樹木を育てたが、汚染水の影響で立ち枯れ、現在では1,000株しか残っていない。県の環境局や情報局に相談したが駄目だった。省幹部の視察に際には、県沙河に架かる橋に大きな看板を立て、汚染状況を隠した。龍海に汚染された10数世帯が、県の環境局を訪れたがらちがあかない。太原市の都市110番に電

話したが、相手にされなかった。郷政府の書記は、汚染された土地は龍海に売却しろと言っている。

- ・ 沙河の汚染源＝龍海と平遥県の工業団地からの汚染によるものがほとんどだ。

蔣 ST

訪問日時：8月19日午前

訪問者：祁・前野・内山（行龍先生同行）

訪問場所：蔣 ST 宅

※当初蔣 SLさんを訪問したが、県城の教会に出かけたため、近くの幹部経験者として訪問。蔣 SLさんの甥。1930年生まれの82歳、午年。以前三谷氏と首藤氏が訪問した。

- ・ 家族＝父は蔣 S 母は冀 YM、県城の人。妻の張 YX は、北宮村の出身で、81歳。5人の子供に恵まれた。長女の蔣 CF は、南王家荘にいる。長男の蔣 YH は本村に居住。次男の蔣 JH は城内で商業に従事。三男の蔣 CH は太原の鋼鉄工場に勤務。四男の蔣 BH は家具の販売。
- ・ 学歴＝本村小学校に5年間通学。1946年父と寧化銀川に行き6年生。1950年、初級中学を卒業。隣村で小学校の教師として3年間勤務。53年より平定師範学校に3年間通学。
- ・ 職歴＝56年、孝義県の小学校に勤務。58年より6年間、下堡中学に勤務。大躍進期には、生徒と製鉄に従事。64年、県の文教局により四清工作隊員として、メンバー2、3人と共に、2、3の村を担当。工作隊は、村に居住して配飯を受けた。従来の村幹部を停職させ、貧農協会から貧下中農の積極分子を新幹部に登用した。彼らの多くは、文盲だったが、社会主義建設に対する気持ちは強かった。66年から孝義県人民公社の秘書となり、司法、民政、戸籍管理、民事にあたった。文革中は党幹部でなかった

ので、批判されなかった。人民公社の指示で、批判闘争隊に参加した。参加したくない者もいたが、無関心は許されなかった。戸籍管理の仕事は大事にされた。文革中も民間のトラブルは多かった。まず村の中で調停し、ダメなら人民公社が調停した。さらに解決しない時は、県の人民法院に提訴した。72年に平遥に戻り、南政郷の隣の達浦公社の秘書となった。単身赴任が終わった。73年に鉄道の「3202プロジェクト」に参加し、太原長治間の鉄道建設に、県の宣伝隊を引率した。78年から90年まで工作隊に参加し、農業指導をした。

- ・最近の村の変化について＝弁証法的検討が必要だ。水利に関しては、蔣SLが詳しい。

蔣 SL

訪問日時：8月19日午後

訪問者：祁・前野・内山

訪問場所：蔣SL宅

※一年ぶりの訪問。作年に比べて、温和な表情になった。相変わらず元気に喋りまくる。

- ・昨年訪問の続きとしてのキリスト教について＝現在はキリスト教を支持する立場だ。特に用がなければ、毎週水曜日に県城の教会に行く。毎週水曜日には、侯LYさんの所に行く。キリスト教を信仰することは、健康にもよい。私は死後天道に登れるかわからないが信仰している。今日の10時から12時も県の教会に、妻は足が悪いので一人で自転車に乗りいってきた。妻は侯LYさんの所に出かけている。彼女は、毎朝6時から隣人の楊SQさんともう一人の女性3人で、霊修をおこなっている。
- ・キリスト教と共産党との関係＝現在では共産党員の入信に制限はない。昔はイエスを信じるか、党を信じるか選択しなければならなかった。現在に中国のキリスト教には「三自」の方針がある。家庭教会は認めら

れた。昨年平遥県城でキリスト教徒のリーダーが逮捕された。彼らのメンバーは300人ぐらいだが、表面的にはキリスト教徒を装っていたが、裏では悪いことをしていた。逮捕されたのはリーダー一人だけだ。

- ・洗礼について＝自分は洗礼していない。心ではキリスト教を信じている。だが組織としては参加しない。自分は現在でも共産党を離党していない。大衆代表や現幹部の顧問でもある。妻からも洗礼を受けろとは言われていない。次男と嫁は昨年から入信した。
- ・キリスト教徒の指導者＝以前の（キリスト教徒の）組長の侯林沅さんは副組長となった。新しい組長は50歳代の女性の董Mさんだ。侯LYさんのほかにもう一人の副組長がいる。隣人の楊SQさんだ。皆信者の間から選ばれた。ただ教会は、以前と同様に、侯林沅さんの自宅だ。毎週水曜日に朝から霊修している。
- ・排水＝道路の状況は依然として良くない。ここの土地は集団化時代から「軟土」だ。郭CYさんの次男が、介休の人民代表大会主任なので、村にセメント600トンを援助してくれた。昨秋に3キロの道路を舗装（硬化）した。1キロ当たり19万円の助成金が出た。しかし排水には問題が残っている。集団化時代には、村から畑まで、7つの退水渠を掘った。現在では使われずごみが捨てられている。63年から65年の3年間、冬になると村民を動員して退水渠を掘った。その結果、村のアルカリ土の5割から7割が改善された。「整控」と言われた。現在では退水渠を廃止しても、アルカリ土は拡がらない。住居地の排水は汾河に流れている。72年から74年の間、汾河の水をくみ上げ、灌漑していた。48個の中型井戸を掘った。排水渠は、金がないので、石やレンガで補修することができない。
- ・アルカリ土＝丘の砂をアルカリ土に混ぜて土質を改良している。60年代に病人が出

たのは、食糧不足の他に、飲料水がアルカリ性だったからだ。集団化時代には、22の井戸を掘った。一つの井戸から200畝の農地が灌漑できた。数年前からアスパラを栽培している。1畝2,000元の収益がある。アスパラの根が老化し、収入が減ったので、昨年からは新しいアスパラを植えた。

- ・ 上級機関の指導は＝太原の大学に在学していたが、本屋で万引きをしたため大学を除籍された郭LQが帰村してから、各地の土を山西水利庁に持って行き、成分分析してもらい、土壌改良の方針を検討していた。郭の息子二人は在村している。郭は紅花煤を使ってアルカリ土を改造した。県も数か所で試行し、奨励したので、他県から見学者が来た。現在アルカリ土の問題は解決した。郭は病死したが、妻の陰YQが健在だ。
- ・ 現在の農業＝化学肥料や種子が改良され、機械化も進んだ。この村では1.7畝の耕地がある。
- ・ 解放前の結社＝一貫道、後天道、天主教など少数の人がいた。一貫道の会員はこの村の小学校の教師だ。山西団の会員も王という小学校の教師だった。解放後は「政治工作組」が対策をしていた。
- ・ 解放前の「保衛」は＝照地？

陰 YQ

訪問日時：8月21日午後
訪問者：祁・前野・内山
訪問場所：陰YQ宅

※郭LQの妻。71歳。午年。南政東劉家荘生まれ。

- ・ 学歴＝1958年、高等小学校卒業。東劉家荘の供銷社に5年間勤務、1962年の困難期にリストラされ、農作業に従事。65年に10歳年上の郭と結婚。
- ・ 家族＝長女、郭SL、本村で結婚。長男、郭SG(1)、本村で養豚。次男、郭SG(2)、

県城の土木会社に勤務。現在は亡くなった郭の従兄弟たちと集住。

- ・ 郭LQについて＝高級中学を卒業後、北京大学（もしくは北京の大学か、陰も不明）中文系に入学し、文革期に西単の共産主義青年団の書記長をするが、1969年に派閥闘争の結果、帰村。村の科研隊に勤務。農業指導や化学肥料の開発に従事。太原の研究所を訪ねたが、経費が足りず、開発は成功しなかった。アルカリ土の研究かどうかは分からない。

その後、郭LQについては、隣家在住の従兄弟の郭臨鑑が詳しいというので、移動。

郭 LJ

訪問日時：8月21日午後
訪問者：祁・前野・内山
訪問場所：郭LJ宅

※ラジオおよび折り畳み椅子を修理中。76歳、丑年。

- ・ 郭LQについて＝高等小学校を卒業後、北京に行き、清華大学に入り、共清団の書記長に就いた。文革時、鄧小平を支持して批判され、北京の農場や炭鉱でも働き、帰村した。村の科研隊に参加し、化学肥料、特にアルカリ土専用の肥料の研究をした。研究そのものは成功したが、大量生産はできなかった。その後村の教師となったが、知識があるので傲慢であった。やがて人間関係が悪くて、仕事をやめ、農業に従事した。肥料の大量生産に成功しなかったのも、村の幹部との関係が影響している。王治祥だけは彼と年齢も同じで、彼を支持した。6年前に急に病死した。死因はわからない。清華大学の王Y教授がこの村の出身だった。
- ・ 郭LJについて＝高等小学校を卒業後、農業に従事した。第6生産隊の副隊長を経験

した。副隊長の前には、水利隊に入っていた。水利主任は、侯 LG で、24 人を引率して水利を行い、8、9 年担当した。水利隊は、水渠を掘り灌漑した。春の灌漑が終わってから、村に閘（水門）を作った。渠は土を掘ったままだったので、灌漑すると、土で埋まった。毎年掘った。路土地（黄土のこと）は固まりやすい。石炭の粉を黄土に混ぜる方法は、郭 LQ が帰村してから始まった。

- ・解放前の照地＝郭 LX、杜 ZS、徐〇〇、あと一人の 4 人がいた。24 時間いつも見張りをしていた。彼らは毎年担当していた経験があり、泥棒の実情をよく知っていた。別に屈強な人々ではない。
- ・打更＝年寄りの来 Q、頭が足りず独り身の〇などがいた。
- ・家族＝長男、郭 SW(1)、本村の鉄工場で働く。次男、郭 SW(2)、太原に出稼ぎ。三男、郭 SP、大工。長女、郭 SL、西游駕に婚家。四男、郭 SW、本村で農作業。7 人のうちの 3 人兄弟は、郭 QY、郭 QL、郭 QH。

劉 SW

訪問日時：8 月 22 日午前

訪問者：祁・前野・内山

訪問場所：劉 SW 宅

※当初王 YZ を訪問するが、農作業に出ているので、電工であった劉 W を訪問。75 歳、寅年。途中から郭 YS、63 歳（80 年代の請負制直前に第 5 生産隊長）、侯 GS、64 歳（霍州の炭鉱で勤務していたが、定年で帰村）が同席。

- ・家族＝妻、梁 KH、70 歳、未年、西堡生まれ。長女、劉 YE、蔣家堡村に婚ぐ。長男、劉 YM、榆次市の銀行に勤務。次女、劉 YX、田家堡に婚ぐ。次男、劉 YT、バスの運転手。三女、劉 YQ、李家橋に嫁ぐが、死亡。四女、劉 YL、源寺村に嫁ぐ。

- ・学歴＝初等中学卒業後、村の電工として修理や工事に従事した。1958 年、榆次の電気学校に選ばれて派遣された。自分が帰村すると、本村も電化された。各農家の電球や村の製粉機、井戸のポンプ等の電気を担当した。
- ・村の井戸＝大躍進期に 20 数個の井戸は、直径 1 メートル、深さ 30 メートルの鏈条原と呼ばれたチェーン式のポンプだ。くみ上げの水量は少ない。野菜の灌漑に利用した。1960 年代に、深さ 20 メートルの深水井戸を 5 つ掘った。潜水原で、24 時間で、10 数畝の土地を灌漑できた。
- ・灌漑＝汾河の水を利用。村の西側に、高灌漑站が 4 つあった。村の水利主任が配分を管理。侯 LG が水利を長く担当していた。58 年頃から 76 年か 78 年ごろまで。王 FG が 2.3 年担当した。侯 LG が長く務めたのは、第一に共産党員であったこと、第二に水利条件に詳しくあったからだ。電工の自分の上司は蔣 SL だった。彼は文盲だったが、政治的には積極分子だったので幹部になった。能力はなかった。
- ・排水方法＝沙河に流した。
- ・電気料＝大隊の会計が担当した。メーターには 2 種類あった。一つは農家の照明用だが、各家庭に電球の数は、電工の自分が工事した時にチェックして、会計に報告した。使用ワット数の不正を防ぐために、ソケットに大隊の印鑑を押した紙にワット数を書き込んで、貼り付けておいた。もう一つは製粉機などの動力用のメーターだ。メーターは各農家が自分で購入して、電工の自分が設置した。80 年代には、各家庭は 5～10 アンペアだったが、現在では 50 アンペアほどだ。現在の電気は料理用器具、洗濯機、冷蔵庫などに使っている。69 年までは木の電柱を使っていたが、それ以後はコンクリート製となった。村民を動員して設置している。
- ・沙河のポンプ＝現在のポンプは、動力源にガソリン・エンジンの発電機を利用してい

る。移動式だから便利で、他人にレンタルしている者もいる。

王 YZ

訪問日時：8月22日午後

訪問者：祁・内山

訪問場所：王 YZ 宅

※ 71 歳、午年。ごく一般の農民という印象を受けた。記念写真を撮った後、以下のことが判明した。父が八路軍の協力者だと言うので、日本軍が家にガソリンをまいて焼いた。父は近くの家に逃げて無事だった。現在の母屋の一部に焼かれた痕跡がある。祖父は商人、父は若死にした。中農。

- ・ 家族＝父は王 G、母は王 H 氏。妻、郭 JH、67 歳、本村人。長女、王 CL(1)、48 歳、平遥県城内に嫁ぐ。長男、王 CL(2)、本村に在住。次女、王 CE、45 歳、太原に嫁ぐ。三女、王 CD、42 歳、太原に嫁ぐ。次男、王 CH、41 歳、本村に在住。三男、王 CB、39 歳、本村に在住。四女、王 CY、37 歳、平遥に嫁ぐ。
- ・ 学歴＝道備小学校から、香沿の平遥五中を 1961 年に卒業後、第 5 生産隊で農業に従事。
- ・ 水利＝集団化時代は渠を掘った。汾河から斗渠、農渠、毛渠を経て、畑に給水した。汾河に排水した。
- ・ 井戸＝50 年代には、直径 1 メートル、深さ 20 から 30 メートルのレンガ井戸の磚井が数十個あった。人力でバケツで汲みあげていた。初級合作社の時代に、馬やラバなどの畜力を動力とした輪車が使われた。
- ・ 水利主任＝請負制の導入まで、党員の侯 LG だった。性格が短気な人だった。請負後は、大隊の幹部が臨時に担当した。灌漑する時だけだったので、幹部には経験がなかった。以前汾河の水は豊富だった。改革開放後は、工場用水が多くなり、汾河の水は利用できなくなった。
- ・ 自分の畑と給水＝共にトウモロコシだけを生産してる、村の西側の畑 7 畝は井戸水を利用している。北側の 6 畝の畑は、汾河の水を使っているが、3,4 年前からは、春に 1 回の灌漑ができるだけだ。集団化の時代には、春、夏、冬の 3 回も灌漑できた。汚染された水は沙河に注いでいる。龍海の排水が畑を汚染している。
- ・ アルカリ土対策＝50 年代には控碱の溝を掘った。水が流れると、アルカリ分も流れた。「平整土地」と言って、高い土地から低い土地に流した。控碱は 60 年代の四清運動まで実施された。
- ・ 肥料＝初級合作社の時代から「小脛」と呼ばれた化学肥料が使われた。それまでは糞と糞を混ぜた「農家肥」だけだった。各生産隊には、糞の粉碎機があったので、農家肥が使用できた。「土炕」を壊して肥料とした。請負制以後は個人で化学肥料を購入している。使用料は増大した。今でも羊の糞は使う。
農具＝請負後はトラクターを個人で購入する者とレンタルする者がいる。レンタル料は 1 畝 10 元ぐらいだったが、最近では 30 元かかる。この村でトラクターを貸し出すのは、馬 WL、田 WP、王 BG の 3 軒だ。彼らはトラクターの運転免許を持っているからだ。
トウモロコシの生産＝全て販売する。1 斤、1.1 元。その金で小麦を購入する。小麦粉は 1 斤、1.2 元。
- ・ 照地＝照田ともいう。解放後の保衛のこと。「照田的」は、王 XN、田 SY など、腕っ節の強い人が担当していた。本村人が多い。生産隊の任務だ。泥棒を捕まえると、罪状が軽ければ、罰金。さらに村の放○、重くなると「游街」となった。王孝仁は書記も主任もやった強い人だ。
- ・ 現幹部について＝何の変化もない。現在は村の治安が悪い。
- ・ 土地の売却＝村の西側の土地は元々は大隊

の土地だった。養鶏する人に売ったが、その人が住宅地として一部を売却した。侯 JL の土地は、大隊から直接買ったもの。土地の売却金は幹部個人のものとなっている。道路補修の金は上級から支給されたものだ。

・廟の再建＝この村は貧しいから再建する考えはない。

二、靈石県溝峪灘村調査記録

日 時：2012年8月20日

場 所：溝峪灘村小学校

訪問者：内山班

通 訳：孫登洲

インフォーマント①：李富海。93歳、申年。父は李成棟、本村人。母の名前は王某（姓しか覚えていない）。隣村である三交村の人。教育程度は数年小学校に通った。農業に忙しくあまり勉強できなかった。卒業後は農業に専念。

インフォーマント②：李治全¹。67歳。戊年。父の名は李銘金²。母は李計林。南関出身。教育程度は6年間高小まで通う。その後農業。

※古い時代のことは主に①聞いたが、多くを②を通じて回答。

○日本人の調査がきたことを覚えているか？

日本人が来たことは覚えている。村の近くに鉄道がとおっており、そこから来て農民を射殺した。日本人は鉱物資源について調査を

した。日本人が来る前には炭鉱開発はされていなかった。調査隊は十数人。その他に100人ほどの警備隊も来た。彼らは家族を連れてくることはなかった。

日本人は民国27年農暦1月27日に初めて来た。その後2～3年して調査隊が来た。彼らは8年ほどいた。日本人は主に経営に当たるとのみで、実際の労働は中国人が行った。

○医療・衛生関係について

「解放」前、村に医者はいなかった。隣村の許家嶺には中医がいた。多くの医者は世襲であり、外で医学を勉強したわけではない。「解放」後、集団化の頃には村に医者が来た。1960年前後であった。

産婆は昔から居た。彼女たちも外で技術を学んだわけではなく、自分たちで技術を学んでいた。

村の病気、食道関係の病気や肺の病気、浮腫などがある。

○「解放」前の生活について

村の主な作物は小麦・トウモロコシ・マメであった。

「解放」前、①の家にはもともと8ムーの土地があった。灌漑地であった。日本人が来て土地を供出させられたため5ムーに減った。家は5大家族。土地改革前の階級は中農であった。

「解放」前にどれだけ土地があれば生活できたかは一概には言えない。①は8ムーの土地で普通の生活ができた。

食生活は春夏秋は1日3食。冬は1日2食。トウモロコシの麺を食べた。

村に副業は特になかった。出稼ぎをする人はいた。夏に晋南へ小麦の刈り取りに行った。日用品や農具は県城や隣村である道美村に買いに行った。集市は隣村にあった。

「解放」前には廟が3つあったが日本人が全て壊した。菩薩廟、子ソウ廟、土地廟の3つ。これらは渠長が管理。渠長は村民の輪番制。選挙で選んだ。渠長は外来戸から「門銭」

1 通訳である孫さんは「冶金の冶、なおるという漢字。さんずいに台湾の台」と説明し「治」か「冶」か不明だったが、中国語では「Li Zhiquan」と発音。故に「治全」と判断。

2 孫さんは「肝に銘じるのメイにカネ」と言ったのでこのように表記。隣の田中先生のメモを覗き込んだら「李命兼」となっていた。中国語では「Li Mingjin」と

を徴収する他、灌漑や廟の管理が仕事。この他の役職としては閭長がある。

「解放」前、村に井戸はなかった。土地廟は水源から遠かった。灌漑には川の水を使った。川の水位が下がった場合には隣村から水を融通してもらった。

具体的な灌漑方法：汾河から水を引く。各土地で順番にやる。その順番は渠長が厳しく管理。

「社」や「会」はなかった。

「解放」前には土匪はいた。彼らは陝西省からきた。銃を持っており、馬を持っている

こともあった。村には保衛団がおり、閭長がこれを管理した。閭長は選挙で選んだが、成人男性全員に選挙権があった。閭長の条件に人柄や財産は関係なかった。能力があり、字が読み書きでき、教育がある人でなければならなかった。村には閭長と渠長の他に幹部はいなかった。

鉞山労働者（中国人）は外から来た人が多かった。鉞山開発によるよそ者の流入によって治安や社会の変動は特になかった。水泥棒もとくにいなかった。